

文化薫道

文化の風が吹くまち ちくしの

問い合わせ先／文化財課(歴史博物館内)

☎(021)8419

一其の三十一 弥生時代の社会を映す貴重品

今から35年前、小郡・筑紫野ニュータウン事業計画に先立ち、現在の光が丘において隈・西小田地区遺跡群の発掘調査が行われました。

遺跡は主に弥生時代(約2000年前)に栄えた集落と墓地群で、人々が長く生活していたことが分かりました。墓地か

らは甕(かめ)の棺が1600基以上も見つかり、その中に多くの副葬品を持つ墓が見つかりました。

葬られていた男性には祭祀(さいし)の道具として使われていた銅鏡、鉄剣、鉄戈(てつか)が添えられ、腕には沖繩諸島との交易でしか得られないゴホウラ貝の貝輪を41個も身に付けて

いました。一般の人々はこのような貴重品を持つことができません。この男性が有力者であることを示しています。

その他にも、集落から離れた谷間で銅戈(どうか)23本が埋められていました。大量の銅器が発見された例は少数で九州でも貴重な事例です。有力者が豊穰(ほうじょう)などを願って祭祀をし、銅器を埋めたものと考えられます。



出土した銅戈

隈・西小田地区遺跡が栄えた時代は小さな集落が集まってクニになり、階層差が生まれます。その中から現れた有力者がクニを率いていたと考えられています。

遺跡から出土した多くの貴重な品は、有力者の強い権威を表す重要なものとして国の重要文化財に指定されています。市歴史博物館で展示していますので、ぜひご覧ください。



副葬品と貝輪を着けた男性

